

平成 28 年度兵庫県農業改良普及活動推進会議の実施結果について

平成 28 年度に実施した兵庫県農業改良普及活動推進会議の結果について、下記のとおり公表します。

記

1 目 的

より効率的かつ効果的な普及活動を農業改良普及センターが展開し、高い成果を創出するため、現在の普及活動の取組状況やその成果等について、農業者、農業関係団体、消費者団体、学識経験者、マスコミ、流通企業等から幅広く意見を聴取し、普及指導計画の作成や普及活動の向上を図ることを目的として、兵庫県農業改良普及活動推進会議を開催した。

2 日 時 平成 29 年 1 月 13 日（金）

3 場 所 兵庫県立ひょうご女性交流館

4 会議の構成員 9 名

（内訳：先進的農業者（1名）、若手農業者（2名）、女性農業者（1名）、
農業者団体（1名）、消費者団体（1名）、学識経験者（1名）、
マスコミ（1名）、民間企業（流通業）（1名）

5 対象農業改良普及センター 5センター（阪神、姫路、豊岡、丹波、北淡路）

6 会議の内容

- (1) 兵庫県の農業改良普及事業の体制
- (2) 対象農業改良普及センターの主要な課題と普及活動の実施状況
- (3) 意見聴取

7 実施結果

構成員から聴取した意見及びそれに対する当県の対応は、別表 1 のとおり。

8 参 考

対象農業改良普及センターの主要な課題は、別表 2 のとおり。

(別表 1) 平成28年度兵庫県農業改良普及活動推進会議での構成員の意見と県の対応

1 普及活動の内容についての意見

番号	発言者	意見	県の対応
1	先進的 農業者	<p>集落営農組織にも会社経営から補助金の受け皿だけのものまで様々なレベルのものがあり、底上げをしていく必要がある。 そのため、リーダーの育成に注力していただきたい。 特に今の60代よりも下の若い世代での育成が重要。</p>	<p>集落営農組織のステップアップは重要で、個々の組織が抱えている課題解決に向けた支援が基本となります。しかし、できるだけ組織の課題をグループ化し、組織相互の情報交換も交えた集団指導も実施します。 また、集落リーダーは、現在60歳代以上の地域が多く、若い世代との接点も勤めがあり難しい状況です。しかし、少しでも若い世代が農業に接する、また参加できる機会を現在のリーダーと検討し場面設定していきたいと考えます。</p> <p>【阪神農業改良普及センター】</p>
2	若手農業者 ②	<p>もち麦を収穫した後の麦わらはどうしているか？ 畜産農家への販売を検討してはどうか。</p>	<p>若い世代に、地域との繋がりを持たせながら集落営農組織の後継者としてリーダー育成を図って行く必要があります。 旧町単位、旧小学校単位で人・農地プランを策定積極的に推進するなど、地域の農業者・集落営農組織・認定農業者等が同じ目標を共有してまとまることで次世代の後継者育成を図っていきます。</p> <p>【豊岡農業改良普及センター】</p>
3	消費者団体	<p>阪神普及センターが取り組む母子茶の各種イベントは、母子茶の知名度を上げるため、PR効果の高い場所で実施すべき。</p>	<p>現状は、土づくりのために土壌へ還元しています。麦わらが有利に販売でき、地域内の資源循環による農業生産にも役立つのであれば、早速検討して行きたいと思います。 もち麦は集落営農組織での生産事例が多いので、作業を効率化するための機械化等の対応も必要になると思います。</p> <p>【姫路農業改良普及センター】</p>
		<p>阪神地域（7市1町）の母子茶の認知度は30%、うち三田市のみ90%ですが、飲んだことのない人は三田市内でも30%もいます。 まずは、三田市内の消費をより高め、阪神地域全体や周辺へのPR活動をすすめていく予定です。</p> <p>【阪神農業改良普及センター】</p>	

番号	発言者	意見	県の対応
4	学識経験者	姫路普及センター開催の「就農希望者セミナー&相談会」について、参加者数47名に対して移住就農者数が1割未満（3名）なのは何故か。問題があるなら対策の検討を。	<p>「就農希望者セミナー&相談会」は、新規参入者の確保を目的に開催しています。自営、雇用による就農、移住も視野に入れた就農も含め、市町、JAなど関係者協力のもと広く情報提供を行っています。</p> <p>移住就農に関する相談は比較する限り少なく、その後のフォローも含めた結果、移住就農へ至っています。そういう意味では、相談者数47名のうちの3名が移住就農に結びついたことは、むしろ割合としては高いと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【姫路農業改良普及センター】</p>
5	学識経験者	集落営農組織が法人化するためには、周年生産できる体制づくりが必要。	<p>雇用した人の賃金を支払えるよう周年での農産物生産の体制づくりは必要ですが、豊岡では冬季の農産物生産は非常に難しいので工夫が必要です。</p> <p>例えば、除雪作業やスキー場などの異業種や、農産物加工などを組み込むことで年間の就業体制を整えていけるよう、新たな仕組みづくりを図って行きたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【豊岡農業改良普及センター】</p>
6	学識経験者	農商工連携の取組について、最初はうまくいっていてもだんだん企業側が力をもってきて、農業者が単なる原料供給者になることがないよう、注意いただきたい。	<p>北淡路農業改良普及センターのトマトの事例の場合は、生産者と加工企業の間にはトマトの洗浄等を行う一次加工業者が入って、数量の調整や両者の考えの伝達などを行っています。</p> <p>また、普及センターが間を取り持つ形で、生産者、一次加工業者、加工企業が本音をぶついたり商談をする場を設けています。</p> <p>このため、トマト等の買い取り価格は下落せず上昇する場面もあり、今後ともwin-winの関係を維持していきたいと思っています。</p> <p style="text-align: right;">【北淡路農業改良普及センター】</p>

2 普及活動の体制についての意見

番号	発言者	意見	県の対応
1	先進的 農業者	ビジョンを地域の農家に浸透させていくには、現場に出向く普及指導員の人数確保は絶対必要。 広いエリアを所管する普及センターは、より人数が必要。	現在、県では行財政構造改革により職員の定数削減の取り組んでおり、一般職員は減少していますが、今後も普及活動に支障が出ないように、引き続き計画的な新規採用や、退職者の再任用により必要な人員を確保していきます。 また、限られた人員の中で、地域の期待に応え効果的に活動ができるよう、 ①地域に応じた適切な人員配置 ②市町・JA等関係機関との緊密な連携 ③普及指導計画の適切な課題設定 ④13普及センター体制の維持 等により、普及活動の充実に努めていきます。 【農業改良課】
2	若手農業者 ①	普及指導員には、昔のように私生活も含めた様々な話ができ、農家の背中を押してくれるような存在でいて欲しい。	農業者への指導については、現地指導の時間を確保するとともに、対象者の状況を踏まえ、将来展望を見通し経営の発展につながるよう、今後とも適切に対応していきます。 【農業改良課】
3	農業者団体	JAグループは今、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を最重点課題とした自己改革に取り組んでおり、具体的な取組として県内全JAで農業所得アッププランに取り組んでいる。 目指す方向は普及センターもJAグループも同じ部分も多い、今後とも協力をお願いするとともに、現状の普及センター体制の存置をお願いしたい。	現在、県では行財政構造改革により職員の定数削減の取り組んでおり、一般職員は減少していますが、今後も普及活動に支障が出ないように、引き続き計画的な新規採用や、退職者の再任用により必要な人員を確保していきます。 また、限られた人員の中で、地域の期待に応え効果的に活動ができるよう、 ①地域に応じた適切な人員配置 ②市町・JA等関係機関との緊密な連携 ③普及指導計画の適切な課題設定 ④13普及センター体制の維持 等により、普及活動の充実に努めていきます。 【農業改良課】

(別表 2)

阪神農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	新たな担い手確保や 省力化などによる露 地野菜の生産拡大	露地野菜栽培機械化体系の確立 (ねぎ)	生産者に占める平成27年度の明渠実施率は18%と低く、その方法も十分ではない。そこで、排水対策の向上を目的に、明渠と暗渠の実証ほを設置し、効果確認をした。 機械化体系では、農家の関心の高い大規模栽培を目指した乗用タイプと小規模タイプの小型管理機体系の実証を行った。
	地域特性を活かした 果樹・花き・特用作 物等の振興	生産性の維持と高品質化 (いちじく)	アザミウマ類被害低減による高品質化を目的に、部会へ防除情報を3回提供した。 また、若返り技術の普及による生産性の回復を目的に、更新せん定の実証ほを設置し、展示普及した。
		新規品目の導入等需要を創出す る取り組みの支援 (サクラ)	ウメ輪紋病発生により生産できない南京桃、盆梅に代わる新商品として、多色咲きサクラの鉢物開発を支援している。市場評価を考慮し、桜にゆかりのある伊丹のイメージ商品開発に取り組んでいる。
		茶園管理の受託組織育成 (母子 茶)	労働力不足から生産量は減少傾向で、対策として省力化機械収穫の展示会を開催し導入を検討している。 また、担い手確保のための法人化検討会を開催した。
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心 となる農業構造の確 立	集落営農の法人化	営農組織 (7組織) を対象に、検討段階に応じ法人化を指導している。 法人化に向けた初期段階の営農組織には、推進リーダーの選出、準備委員会の立ち上げ、法人化知識や具体的な手順の理解促進など営農組織内での合意形成を支援している。 法人化合意形成のできた営農組織には、法人化計画 (営農ビジョン、経営計画等) 作成支援を通じ、集落リーダーの活動をサポート、法人化準備委員会の立ち上げと運営を支援し、法人化へ誘導している。 その結果、法人化準備委員会が6組織、法人化発起人会が2組織で立ち上がり、平成28年度中に法人化される見込みとなった。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心 となる農業構造の確 立	集落営農の組織化促進	市町、JAなどの関係機関と連携し、重点支援集落を絞り込み、役員 の意向確認、集落内アンケートを実施し、集落座談会による周知と ビジョンの共有などを支援している。 その結果、5集落でアンケート調査を行い、役員会、座談会などが 実施された。また、1組織が平成28年度内に設立見込みとなった。
	新規就農者の確保・ 育成	親方農家との連携による就農支 援 (いちご)	親方農家や先輩農家との交流会を設定し、技術や販売方法について 意見交換を実施した。このことにより新規就農者の技術研鑽が図られ た。 また、JAと連携し、個別巡回や経営簿記研修会を開催すること で、栽培技術や経営管理の向上につながっている。 適期定植と基本技術の管理の徹底を指導することで11月から出荷が 始まり、売上が順調に伸びる見込みである。
6 畜産物のブラン ド力と生産力の強 化	但馬牛、神戸ビーフ のブランド力と生産 力の強化	繁殖部門の導入に向けた子牛育 成・経営管理技術向上の支援	4戸の繁殖農家に対し、哺育・育成牛の成育調査を行い、個体毎の 栄養及び飼養管理の徹底を図り、出荷子牛の商品価値を高めている。 また、市場からの子牛導入と雌牛の自家保留を計画的に進めたこと で繁殖雌牛の増頭につながっている。
14 新たな需要や市 場の積極的な開拓	マーケットインの発 想によるブランド 化、特産品化、6次 産業化	商工との連携およびPR活動支 援(母子茶)	母子茶のスイーツレシピコンテストを商工会に委託した。入賞作品 の中から2点が商品化された。 また、その他に母子茶スイーツの商品開発を商工会を通じて三田市 内の菓子業者に委託し、1点の商品化が決定した。 今後は、普及センター、市、JA、商工会、大学等と連携を強化 し、農商工連携商品の開発と消費拡大を進めていく。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

姫路農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物の生産拡大	都市近郊の立地等を活かした施設野菜の生産拡大	鮮度の高い葉物野菜の供給体制の確立	施設面積の拡大や機械導入、集出荷体制の構築により、安定的に生産供給できる体制づくりを行った。その結果、中播磨野菜出荷組合員のうち経営安定につながった人数は、11人中6人となった。
	地域特性を活かした果樹・花き・特用作物等の振興	小ギクの新規産地の育成	J A及び県立農林水産技術総合センターと連携して品種選定、開花調整技術等の実証を行った。その結果、主作以外に新たに小ギクを経営に取り入れる集落営農組織や意欲ある農家の掘り起こしにつながった。
2 土地利用型作物(米・麦・大豆)のブランド力向上	ひょうごの強みを活かした県産米の生産振興	優良品種の低コスト安定生産技術の確立	J Aと連携し、管内の水稻主要品種の環境創造型水稻栽培ごよみに沿った栽培体系を推進した。その結果、高付加価値化、低コスト化が図られ、簿記による法人会計指導と合わせた集落営農の経営改善につながった。
		適地適作を基本とした非食用米の安定生産(飼料用米)	飼料米生産活用協議会に対し、栽培技術改善や飼料用米を給与した卵「ひょうごの穂々笑実」のブランド化支援を行った結果、順調に作付面積が増加した。
	需要に応じた麦・大豆の生産振興	優良品種の低コスト安定生産技術の確立	麦、大豆、小豆生産における適切な排水対策や除草対策の実施を進め、生産性の改善を図った。その結果、交付金による生産安定感もあり、作付面積が増加している。
3 環境創造型農業(人と環境にやさしい農業)の拡大	環境創造型農業の技術普及と取組拡大	堆肥等施用技術の推進	機械化除草や緑肥活用による水稻栽培を進めた。その結果、省力、低コストにより栽培できることがわかり、生産者の環境創造型農業へのハードルが低くなったと同時に、高付加価値化への意欲向上につながった。
5 多様な担い手の確保・育成	法人経営体等が中心となる農業構造の確立	農家および集落営農組織の法人化	経営記帳、法人化への合意形成等を支援した結果、法人組織が設立された。今後、円滑な組織運営、経営計画の実践を支援する。
		農業法人の育成	新規農業法人の経営指導を全体研修会や個別対応で行ったことによって、経営状況の把握や経営改善目標の設定ができた。
	新規就農者の確保・育成	新規就農者・青年農業者の育成	就農セミナーの開催、新規就農者や就農希望者に就農計画の作成等を支援した結果、認定新規就農者数が増加した。またHANDS会員の消費者交流活動による販路拡大を支援した。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果*
6 畜産物のブランド力と生産力の強化	高品質で特長のある鶏卵・鶏肉・豚肉の生産(鶏卵)	飼料用米給与によるブランド卵の生産拡大	飼料米生産活用協議会で、効果的なPOPやちらしの作成、イベントの企画、イベントでのPRを支援した。その結果、スーパーの他に固定のファン(洋菓子店)ができ、順調に生産量が伸びている。
14 新たな需要や市場の積極的な開拓	マーケットインの発想によるブランド化、特産品化、6次産業化	地域内流通による中播磨野菜ビジネスの創造	生産者と実需者間の受発注を流通業者を介した専用のシステムで行い、集出荷体制の整備を図った。 また、新規就農者や就農初期などの若手農業者を対象に中播磨野菜研究会を開催し、栽培講習会や視察研修会などで経営能力を高め、中播磨野菜出荷組合に参加して意欲的に生産を行う生産者を育成した。
		企業と連携した6次産業化の推進	6次産業化志向企業と農業者の意見交換会を実施し、ネットワーク化に向け組織づくりの検討会の支援を行った。その結果、中播磨地域内の農産物流通システムの確立と地域産物を使ったブランド商品の開発などへの動きが生まれてきた。
	異業種連携による価値創造の推進	医農連携による消費拡大推進(もち麦)	もち麦産地振興協議会を構成する関係機関との連携のもと、機能性の高い有望品種の導入や病院・医師・大学の意見を生かした商品づくりを実施した。さらに、もち麦フォーラムを開催したりマスコミを活用して、もち麦のPRを実施した。その結果、急激な販売増につながり、生産面積も順調に拡大している。
15 効率的・安定的な流通の確保	実需者ニーズに対応した県産野菜の生産流通体制の強化	バリューチェーンの構築	複数の流通システムや受発注システムの運用に対応できるよう、生産物の集出荷方法の改善に向けた支援を行った。その結果、集荷拠点の整備や鮮度保持への対応などについて検討が進んだ。また、中播磨野菜出荷組合員自らが組合全体の出荷先を開拓するようになった。
		野菜の安定的な供給の推進	中播磨野菜出荷組合として、実需者への生産物の周年供給体制を作るため、個別の基幹作物設定と作期拡大を行った結果、出荷組合の出荷量が増加した。
17 集落の活性化と雇用・所得の拡大	中山間地域をはじめとする農村の多面的機能及び集落機能の維持・保全	環境保全型農業直接支払制度を活用した環境保全型稲作の推進	集落営農法人に対し、制度の積極的な活用と緑肥作物を利用した水稻栽培技術の改善について指導を行った結果、実施面積の拡大につながった。(H28度の対象集落の緑肥利用による水稻栽培面積 9.8ha)

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

豊岡農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	新たな担い手確保や省力 化などによる露地野菜の 生産拡大	ブランド化と生産安定技術の向上 によるキャベツ産地の拡大	<p>キャベツ産地拡大のため販路開拓と生産安定技術の向上を支援している。ひょうご推奨ブランドを5.7haで新規取得し、量販店等への新たな流通に取り組んだ。</p> <p>さらに、フェロモントラップ設置と発生予察体制整備等適期防除技術を指導し、秀品率が89%(前年72%)に向上した。</p>
	地域特性を活かした果 樹・花き・特用作物等の 振興	新規需要に対応したぶどう栽培の 定着	<p>豊岡ぶどうのブランド力向上のため、市と連携し東京・沖縄への販路開拓及びふるさと納税の謝礼品等への利用など積極的なPR活動を展開している。</p> <p>また、直売贈答用規格の大房(600~650g)が中心の栽培主体から、量販店を視野に入れた量販店対応規格(500g)の房づくり技術導入を推進している。</p>
3 環境創造型農業 (人と環境にやさしい農業)の拡大	環境創造型農業の技術普 及と取組拡大	コウノトリ育むお米における品 質・収量の向上	<p>コウノトリ育むお米の販路拡大に取り組むほか、品質・食味向上を目的とした施肥改善及び無農薬栽培成苗ポット育苗技術導入など9カ所の技術実証ほを設置し技術確立を図っている。</p> <p>また、若手農業者や新規栽培者への技術支援では、ベテランに学ぶ研修会開催などベテラン生産者と一体的な取組を促進している。</p>
		あやこがね採種体制の確立	<p>コウノトリ育む農法による大豆は、契約先の食品会社からの増産が望まれ気候条件に適した大豆品種「あやこがね」の栽培面積拡大に向け推進し、安定的な種子の確保を目的に採種ほ1.8haを設置し、種子自給体制を確立した。</p>

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心となる 農業構造の確立	経営改善計画の作成と実践	<p>若手稲作農業者に対して、経営改善計画の策定に向けた経営指導や水稻のコウノトリ育む農法無農薬栽培、直播、ICTの技術導入支援を行い、28名の技術改善を促進した。</p> <p>また、農業参入企業支援では、市場出荷に向けた小ギク栽培技術導入支援を図り、経営を定着させた。</p>
	新規就農者の確保・育成	収益性・継続性・社会性を備えた 集落営農組織の育成	<p>集落営農組織設立・法人化支援を計画的に推進するため、集落営農推進チーム（JA、市、農地管理事務所ほか）を立ち上げ、16集落（未組織7集落、法人化指向9集落）を対象に営農組織設立、法人化を推進している。</p> <p>10月に豊岡市日高町で新規営農組合が設立し、既存組織3組織で法人化に向けた準備委員会が立ち上がるなど着実な成果を上げている。</p>
	新たな需要や市場の積極的な開拓	マーケットインの発想によるブランド化、特産品化、6次産業化	事業継続可能な組織体制づくり

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

丹波農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	新たな担い手確保や省力化などによる露地野菜の生産拡大	山の芋の需要に対応した省力機械化生産体系による面積の拡大	実証ほを設置して省力機械化体系の確立を図った。その結果、移植機による植え付けは、従来の1/4(6時間/10a)と省力化が図られた。 また、拍動灌水装置による増収効果も安定しており、次年度への普及が見込まれる。
	地域特性を活かした果樹・花き・特用作物等の振興	特産若松の生産安定	国の研究機関との連携により、先枯れ症状の原因がアルタナリア(病原菌)である可能性が高いことがわかった。研修会等を通じて生産者間の情報共有を進め、防除効果を高めている。
		丹波栗の栽培面積拡大(栗)	丹波栗の新植推進研修会等により、新規植栽の推進を図った。その結果、1.5haで新植が計画された。 また、平成23～27年度の新植者に対しては、研修会やニュースレターを通じて凍害対策や基本技術の徹底を図った。
2 土地利用型作物(米・麦・大豆)のブランド力向上	需要に応じた麦・大豆の生産振興	丹波大納言小豆安定生産の推進	JAと連携してほ場準備段階で研修会を開催するなど排水対策の徹底を図った。その結果、播種作業は順調に進んだ。 また、溝堀機などの排水対策機械を9組織で導入した。 さらに、種子生産組織に対して現地研修会を通じて栽培技術の平準化を図った。
4 農地の集積・集約化と農業用水の確保	地域の中心となる経営体への農地の集積・集約化	集落ビジョンの作成支援	関係機関と連携し、集落座談会等を通じて人・農地プランの作成を支援した。その結果、プラン作成集落は19集落から36集落へと増加した。 関係機関と連携して集落農業活性化塾を開催した。集落営農の必要性や集落計画づくり、先進地事例の紹介などを行い、集落営農未組織集落11集落が受講した。
		新規集落営農組織の育成	活性化塾や個別集落への働きかけを行った結果、3集落で集落営農組織が設立し、今後2集落で集落営農組織が設立される見込みである。また、1集落営農組織が法人化するとともに6組織で法人化を検討している。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心と なる農業構造の確立	個別経営体の経営安定	農業施設貸与事業を活用した認定就農者を中心に、施設野菜の技術習得を図るための研修会や経営能力の向上をめざした研修会を開催した。さらに個別指導も行い、経営のステップアップを図っている。
6 畜産物のブラン ド力と生産力の強 化	但馬牛、神戸ビーフの ブランド力と生産力の 強化	繁殖肥育一貫経営への誘導によ る経営の安定化	繁殖管理ソフト「丹波ミニマム」を利用し、家畜保健衛生所等とともに、繁殖成績の実態を定期的に把握し、その改善策を指導して繁殖成績の改善を図っている。
	県産牛乳乳製品のブラン ド力と生産力の強化	酪農経営における低コスト化の 推進	低コスト飼料の利用が2戸で始まり、乳牛の生産性と健康状態を家畜保健所等と定期的に調査し、適正な飼料給与管理を指導している。
14 新たな需要や 市場の積極的な開 拓	マーケットインの発想 によるブランド化、特 産品化、6次産業化	丹波ブランドの産地戦略実践 (粟、小豆)	丹波栗の基本構想の実現に向けて、食べ歩きフェアやスイーツコンテストを開催し、丹波栗ファンの拡大を推進した。 丹波大納言小豆の認知度向上に向けて、関係機関と連携して「ぜんざいフェア」を計画した結果、丹波市内飲食店36店舗が参加し、産地内外へ向けてPRを図った。
		農産物を活かした商品開発支援	「売れる商品づくりセミナー」を開催し、9者(5組織4個人)の受講者に対して、加工品の商品力や販売力の向上を図った。 そのうち4者が、アグリフードエキスポ大阪の商談会に出展する見込みである。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

北淡路農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物の生産 拡大	地域特性を活かした果 樹・花き、特産作物等の 振興	カーネーション周年栽培技術の 確立 (夏切り栽培の普及)	暑さに強い5品種を選定して1戸の農家が夏切り栽培を試験栽培したが、害虫が多発し課題を残した。 女子プロ野球球団兵庫ディオーネの公式戦などのイベントで淡路島カーネーションをPRし、好評を得た。 「なにわ花市場」へ物日（お盆、9月彼岸、年末、3月彼岸）の仏花向け35cm商品の試験供給が決まった。
		ストックの省力栽培技術の確立	安定生産のため、①遠赤色LED電照による草丈伸長、②促成栽培作型における電照による早期出荷、の2課題について実証し、安定生産技術として普及を推進している。 より迅速に市場へ出荷確定数量を伝達することで、安定的に販売する体制を整えた。
		ストックのオリジナル品種の育成	在来の晩生種からオリジナル品種の育成を進め、「淡路ホワイト」と名付け4品種を選定した。
		新規栽培者の技術習得の推進 (いちじく)	7名42a（うち、ハウス4名21a）が挿し木を行い、栽培面積が拡大した。
		安定生産に向けた高品質生産技術の導入（いちじく）	品質向上のため、雨除け資材等を普及し、計画どおり30戸が実施した。 淡路島いちじくのブランド化推進のため、JA集荷場に光照射装置を導入した。また、輸出に向けて、継続して輸送試験を実施している。さらに、淡路島いちじくのPRのため商談会や品評会を実施し、知名度が向上した。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
5 多様な担い手の確保・ 育成	法人経営体等が中心となる 農業構造の確立	集落営農法人の活動支援	省力的に農地を管理するため、1法人が155aの農地で放牧を実施した。また、1法人が10haの農地で稲WCSを導入した。
		集落営農法人の設立支援	市と協力しながら、集落座談会等で集落の法人化について検討を重ねた。その結果、1集落営農組織が平成29年度早々の法人化を決定した。 今後は、事業計画の内容を検討していく予定である。
		集落営農計画の樹立	集落役員会や集落座談会において、人・農地プランの必要性や計画の立案方法を指導した。その結果、1集落が人・農地プランを作成し、認定を受けた。
	新規就農者の確保・育成	就農計画の実践	平成28年度は1名が独立就農した。また、平成29年度は4名が就農予定となった。 就農計画の実戦に向け、新規就農者24名に対してマンツーマン指導を行い、その中でも特に経営改善が必要な4名に対して濃密指導を行い、3名が経営目標を達成する目処が立った。
		生産技術習得と向上	2名がいちご底面給水育苗、光反射シートの新技術を実証し、生産技術の高度化を果たした。 レタス、いちじく、ピーマン、たまねぎ等、作物ごとにグループ研修会を開催し、栽培技術、経営能力の向上を図った。
6 畜産物のブランド力と 生産力の強化	但馬牛、神戸ビーフのブランド力と生産力の強化	繁殖雌牛の増頭に応じた飼育環境の整備	JAと増頭に関する研修会を開催したところ、管内から12名が参加した。そのうち3名が補助事業を活用した牛舎整備を計画した。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成28年度課題)	実施状況及び成果※
6 畜産物のブランド力と 生産力の強化	但馬牛、神戸ビーフのブ ランド力と生産力の強化	繁殖雌牛の増頭に応じた飼育環 境の整備	定年退職者や退職を控えた兼業農家9名をグループ 化し、研修会を定期的開催している。新たに増頭計 画を作成した5名は、7頭の増頭が行われた。
		放牧の拡大	平成28年5月に淡路和牛舌刈り活用推進協議会を設 立した。 また、集落営農組織連絡協議会において、省力的な 農地管理（放牧、WCSなど）を指導している。
14 新たな需要や市場の 積極的な開拓	マーケットインの発想に よるブランド化、特産品 化、6次産業化	需要に対応できる農産物の生産 安定	<p>【カレンデュラ】「カレデュラ倶楽部」は商談会へ参 加する事で商品アイテムや活用方法が増え、販売先も 見つかる予定である。</p> <p>【加工用トマト】出荷量は、20tとやや増加した。一 次加工業者がコーディネーター役として荷受基準（着 色、傷程度）の指導ができるようになった。</p> <p>【ほうれんそう】大坪営農組合は、30aの栽培面積で 作付中である。</p> <p>【デュラム小麦】28年産は3者が栽培し、面積 5.1ha、収穫量6.3tとなった。収量の確保と品質向上 に向けて取り組む意識に統一された。</p>

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの